

言葉による心理への影響

～ごみ投棄問題の解決策を考察し宇和島市の景観を守る～

1年4組 水野 すず 1年4組 谷口 理名 1年3組 細島 優
1年4組 福島 隼人 1年4組 戎 菜々子 1年3組 井上 南海
指導者 川端 恵美

1 課題設定の理由

宇和島市のごみ処理は市役所が管理し、地域のボランティアでも清掃活動を行っている。しかし、道路や人目に付かない場所などではごみが放置されてある場所があり、大きなものでは川に発砲スチロールが投棄されているものもあった。ごみ処理に関する整備はなされているのに、ごみの投棄があるということは、人々の心理状態に問題があるということになるだろう。そこで、宇和島市内の特定の場所において、ごみを投棄する人の心理に訴えかけるための効果的な方法を検証し、解決策を模索することにより宇和島市の景観を守ることに貢献できると考えてこの課題を設定した。

2 仮説

論文「優秀ポスターを構成するデザイン要素の研究」によると、言葉によって心理への影響は異なるという。そこで、ポスターの文言を二つの場合に分けて検証を行った。一つは禁止や指摘の言葉、もう一つは感謝の言葉である。「互恵性規範」により、謝辞の方がごみを持ち帰ろうという気持ちになり、ごみの総数が減少すると考える。

3 ポスター作製と検証

(1) ポスター作成

ア ポスターの条件：文字数：24字、フォント UD デジタル教科書体 NK-B
背景色：白色、文字色：青色
大きさ：A2サイズ

UD書体とは、ユニバーサルデザインフォントのことであり、教科書体は学校教育において弱視や読み書き障がいなどの文字を読むことが困難な子どもにとって読みやすい書体として設計されたものである。これを用いることによって、通行している自転車や自動車などの遠くからでも見やすい表記になるようにした。

文字色は、心を落ち着かせる効果があり、集中力や記憶力が上がると言われている青色で統一した。また、青色は視認性を高めることで書いてあるものが自然と目に入ってくるという。

イ 検証場所：元結掛口バス停留所の待合所

(2) ごみ拾い

検証を行う前にごみを拾い、何もない状態から一週間毎のごみの増減を調べた。初日のごみ合計は約152個であり、その8割がたばこの吸い殻であった。

ア ポスターAでの検証

ポスターA(写真1)「ゴミを捨てている人がいます ゴミは持ち帰りましょう」という指示の言葉で検証した。期間は10月16日から12月2日の47日間設置した。



写真1 「指示」

イ ポスターBでの検証

ポスターB(写真2)は「いつもきれいに利用していただきありがとうございます」という謝辞で検証した。期間12月9日から2月3日の57日間設置した。



写真2 「謝辞」

4 結果と考察

一週間毎のごみの増減(図1)の結果の通り、ポスターAを設置していた期間(10月16日~12月2日)のごみの総数は7個、ポスターBを設置していた期間(12月9日から2月3日)のごみの総数は9個であり、ごみの総数に大きな変化は見られなかった。ごみの種類としては、空き缶やナイロン袋のごみは無くなったが、たばこの吸い殻のごみは減少することはなかった。

空き缶ごみの減少の理由は、季節が秋から冬と変化して水分摂取をさほど必要としなかったからということも考えられる。ポスターを見て持ち帰ったりごみ箱に適切に捨てたりしたからかもしれない。

また、たばこの吸い殻ごみは喫煙する時間が夜間で、ポスターの見えにくい夜間だったのではないかと考察する。

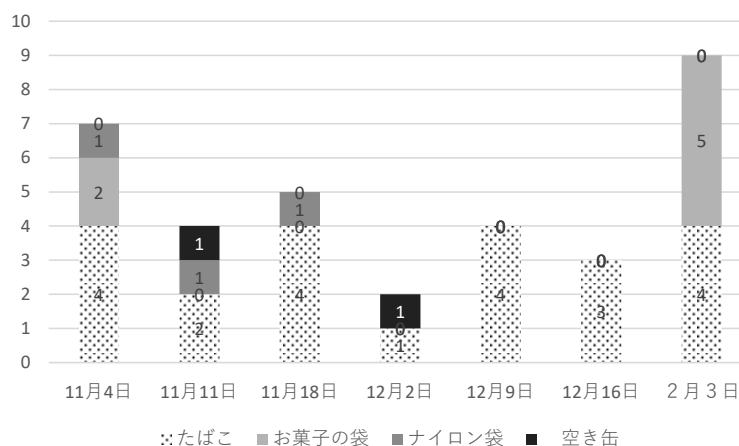


図1 一週間毎のごみの増減

5 今後の課題とまとめ

今回は呼び掛ける言葉に焦点を絞って研究を行ったが、人間の心理に訴えるのは言葉以外にも様々な要因がある。例えば、設置場所(高さ)やポスターの大きさ、挿絵などのポスターに関する条件や、待合所のきれいさや人目の有無などの周囲の環境条件だ。

また、ごみの投棄は昼夜問わず行われるという可能性を考えて、夜でもポスターが見えるように文字色などを工夫する必要がある。また、ごみが地域の方々によって回収されていた場合が考えられるので、地域の方々と連携を取って検証をする。さらに、ポスター以外にもポイ捨てを無くする取組として捨てたくなるごみ箱の設置などがある。これらから効果的な方法を組み合わせることも考えていきたい。

今回は不特定多数の人を対象にして研究を行ったので確実な考察を行うことができなかった。逐一観察可能な校内での検証を行い、それらを参考にして校外・宇和島市内に展開していきたい。

参考文献

- [1] 「送り手との互惠性規範の形成による社会的迷惑行為の抑制効果:情報源の明確な感謝メッセージに着目して」(油尾聡子:名古屋大学大学院教育発達科学研究科・日本学術振興会、吉田俊和:名古屋大学大学院教育発達科学研究科)(社会心理学研究 第28巻第1号2012年)
- [2] 「見えざる人の存在を想起させる仕掛けによるポイ捨て抑止実験」(山根大路、松村 真宏:大阪大学経済学部・大阪大学大学院経済学研究科)
- [3] 優秀ポスターを構成するデザイン要素の研究(日本デザイン学会研究発表大会概要集:J-STAGE)